ホタルのニュースレター
日本ホタルの会 2022/11 第 96 号

30 周年特集号(2)

ホタルと SDGs

日本ホタルの会　宇田川弘康

日本ホタルの会 30 周年おめでとうございます。

30 年前にどんなことがあったか調べてみたら，バブルが崩壊し，きんさんぎんさんがテレビで活躍，バルセロナオリンピックで水泳の岩崎恭子選手が金メダル，横綱千代の富士引退などがあった年でした。

早いもので私もホタルの会に入会させていただいてから，20 年くらいたったかと思います。その間にもホタルの生息環境は変化してきていると感じます。

最近，テレビや新聞などで「SDGs（エスディージーズ）」という言葉をよく聞くようになりました。SDGs とは，Sustainable Development Goals　＝　持続可能な開発目標　という意味で，17 の目標があります。国連総会で決められたものですが，頭の良い人は難しい言葉を使いたがるようで，私のように頭の良くない人は，「もっとわかりやすくしてくれれば良いのになあ」といつも思います。わかりやすくいうと「未来の地球のための目標」ということだと思います。

17 の目標は以下のとおりです。

1　貧困をなくそう
2　飢餓をゼロに
3　すべての人に健康と福祉を
4　質の高い教育をみんなに
5　ジェンダー平等を実現しよう
6　安全な水とトイレを世界中に
7　エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8　働きがいも経済成長も
9　産業と技術革新の基盤をつくろう
10　人や国の不平等をなくそう
11　住み続けられるまちづくりを
12　つくる責任つかう責任
13　気候変動に具体的な対策を
14　海の豊かさを守ろう
15　陸の豊かさも守ろう
16　平和と公正をすべての人に
17　パートナーシップで目標を達成しよう

この目標は日本だけではなく，世界の国々にむけて設定しているものですので，日本のホタルと関係がありそうなものは，7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに，11 住み続けられるまちづくりを，12 つくる責任つかう責任，13 気候変動に具体的な対策を，15 陸の豊かさも守ろう，の 5 つくらいが当てはまると思いますが，未来の地球のためには，これらの目標を守っていこうということになっています。

世界の気候は当然つながっており，温暖化が地球全体として重要な問題となっています。最近，パキスタンでは豪雨や氷河の融解により国土の 1/3 が水没し，中国では 40 度を超える熱波により湖が干上がるなどの被害が出ています。日本でも猛暑日の日数が全国各地で記録を更新しています。

現在調べているところですが，ホタルの生息地である千葉県勝浦市と東京都青梅市について，直近の 10 年間と 40 年前の 10 年間の気温データを比較したところ約 1.5 度上昇しており，ホタルの発生時期も早期化していることがわかりました。この結果については次の機会にご報告したいと思います。

最後に，現在の地球の状況は，自然の摂理による淘汰のように感じます。慎ましくいきましょう。

坪井湿地におけるヘイケボタル復活プロジェクトについて

里山 Bewahrung/日本ホタルの会 会員　戸谷博明

千葉県船橋市の北東部に位置する坪井地区は，印旛沼水系の桑納川の支流である坪井川が流れ，かつては里山環境が広がる自然豊かな土地でした。2000 年に船橋市が実施した自然環境調査（ホタル調査）では，数多くのヘイケボタルが確認されています。

1996 年に東葉高速鉄道 船橋日大前駅が開業し，以降大規模な土地区画整理事業が始まり，住宅開発により質の高い住環境が整備された一方で，自然豊かな里山環境が失われ，そこを住処とするヘイケボタルをはじめとした里山の生きものが激減してしまいました。

1995 年の船橋日大前駅周辺の様子

現在の船橋日大前駅周辺の様子

このような環境変化の中で，2010 年より，ヘイケボタルをはじめとした里山の生きものが再び棲息できるように，地域住民（坪井湿地を復活する会）と地元の千葉県立船橋芝山高等学校 科学研究部生物班，千葉県立松戸南高等学校 科学研究部 Team Quad-E，里山 Bewahrung が協力して，ヘイケボタルの復活プロジェクトに取り組んでいます。具体的には，坪井地区にもともと棲息していたヘイケボタルを保護（水槽での生息域外保全）しつつ，土地区画整理事業によって新たにできた坪井近隣公園内にある調整池の一角を『坪井湿地』としてミニ田んぼや水路を整備しています。そして 2014 年より，保護している幼虫の一部を地域の子ども達とともに坪井湿地に放流し，成虫の発生状況を調査しています。その他にもふなばし環境フェアやエコメッセ in ちばといった環境普及啓発イベントへの出展，坪井の自然に関する子ども向けの講座やヘイケボタルを観賞するイベントの実施を通して，本プロジェクトの周知を図っています。

坪井湿地　（全景）

坪井湿地　（看板）

ホタル幼虫放流式の様子
- 高校生によるホタルクイズ -

ホタル幼虫放流式の様子
- 子ども達による幼虫放流 -

坪井湿地での作業の様子

坪井湿地のヘイケボタル

● 坪井湿地を復活する会ホームページ（Facebook）

https://www.facebook.com/hotapuro/

坪井湿地を復活する会マスコットキャラクター

つぼたるくん(左)とほたみちゃん(右)

関東周辺のホタル

前編：関東周辺のヒメボタルの生態と生息地について

日本ホタルの会 会員　小嶋健二

はじめに

私は子供の頃に近所の河川や田園で見ることができたホタルの乱舞が忘れられず，38 年ほど前に車の免許を取得してから，毎年埼玉県周辺の里山の自生地を散策してきました。最初はただ綺麗なホタルが見たかっただけでした。当時は環境などにはあまり関心がありませんでした。しかし年々多くの場所で，環境の変化によるホタルの減少を体験する中で，ホタルの生態環境が著しく悪化していると感じるようになりました。そこでホタルの生態や環境にも興味を持つようになり，

独自に生態なども調べるようになりました。特にここ数年の LED の街灯による環境の変化は著しく，多くの里山からゲンジボタルの姿が消失しました。

ゲンジボタルとヘイケボタルについては，特に危機感を感じるようになり，自分でも何か出来ないかと行政などにも掛け合ったりもしたのですが，個人での活動では話を聞く程度で全く取り入っていただけません。個人での活動に限界を感じ，日本ホタルの会に参加させていただくことにしました。また，8 年ほど前から始めた一眼レフカメラの撮影をきっかけにヒメボタルの存在を知り，撮影だけではなく生態にも興味を持ち始め，やはり独自ではありますが色々と調べてきました。その中で思ったことを少し書いてみましたが，文才がなくまとまりのない内容ですがお読み頂けたら幸いです。

富士山のヒメボタル

遡ること 1000 万年前，日本列島が朝鮮半島付近で大陸とつながっていた頃，東日本は海の中に沈んでいたらしいです。その後，日本は大陸から離れたり，富士山周辺が隆起して何度も大噴火繰り返し，ようやく 1 万年くらい前から今の日本列島の形に落ち着いたとネット文献からの受け売りで，実際に自分で見たわけではないですが，概ねそんな感じだったのでしょう。そんな中，ホタルや様々な生き物たちも生息地を移動しながら，多様な進化を遂げていったのでしょう。いろいろな文献から富士山のおいたちを見ていくと，1 万年ほど前から今の富士山の形を作り始めたようです。約 1000 年前，富士山はかなり噴火が活発な状態で，火の粉や火砕流が麓まで届いて，富士山周辺は焼け野原になっていたようですね。現在では富士山の五合目付近の樹海にまで，数多くの自生地があるヒメボタルですが，噴火による影響で何度となく自生地が根絶と再生を繰り返してきたのではないでしょうか？このことを踏まえて考えると富士山麓のヒメボタルは，高いところから低いところへ自生地が広がっていくのではなく，低いところから高いところへと自生地が広がっていったのではないかなと考えられますね。ヒメボタルのメスは飛べないため，自生地の広がりは，かなりゆっくりかと思われますが，予想以上に速いペースで広がっていくようです。1 日 1 メートル繁殖地を広げたと仮定すると，1 年間の活動期で半径 250 メートル広がる計算になり，1000 年で半径 250km 広がる計算になります。川や湖や火山などの妨げなどもあるので，単純な計算通りでは無いと思いますが，そうやって日本全域に広がっていったんですね。

ホタルの餌について

ゲンジボタルの餌はカワニナ，ヘイケボタルの餌はタニシ，ヒメボタルの餌は小型の巻き貝と，ずっと知られてきたホタル界の常識を覆す内容の文献を SNS などで多く見かけるようになりました。最近ではゲンジボタルの養殖にミミズを餌にする実験も多く試みられるようになりました。さて，自然界ではどうなんでしょうか？ 常識と思われていたホタルの餌は貝類限定ではなく，ナメクジ，ヒル，ミミズや他の昆虫の幼虫なども食べているのではないでしょうか？ ホタルの好物は貝類なのかもしれませんが，例えばマングースは蛇を主食するイメージはありますが，実はネズミ，ウサギ，小動物，鳥などを主食としていて，蛇はたまに食べる程度と言うことが判ってきました。ホタルが貝類以外を食べていても何の不思議も無いですよね。このように過去の常識にとらわれず，もっと大きな視野で観察していきたいなと思います。

ヒメボタルの生態，環境について

ヒメボタルはゲンジやヘイケボタルと違い水環境の影響を受けにくく，都心部でも古く大きな森林でも自生地があることが判ってきました。ヒメボタルは森林を好み，森林周辺の草原などにも自生地があります。陸生ではありますが湿った地面を好むため，落ち葉の多い落葉樹の森を好みますが，針葉樹の森であっても腐葉層が厚い場所でも多くの自生地があります。落葉樹の場合，木が若い森では下草が高く飛翔しにくいため，繁殖行動の妨げになるのでしょうか，下草の低い森の方が自生地が多い様に感じます。

ヒメボタルの繁殖行動は，光のコミュニケーションによって行われ，月明かりや街灯などの影響を受る場所を嫌います。このため街灯が届く場所には自生地が少なく，ある程度奥行きのある森や周囲に街灯が無い森を好み，小さめの森には自生地が少ないですね。南斜面と北斜面では，羽化のタイミングが若干ずれるものの，北斜面の方が自生地が多いように感じます。これは北斜面の方の地面が乾燥しにくいからでしょうか？ 山間部の自生地ですが，急斜面ではなく尾根に沿った部分や谷に沿った部分が好まれるみたいです。急斜面は雨で流されやすく，落ち葉なども流されやすく，泥がむき出しになって乾燥しやすく，幼虫も急斜面を登るのが大変なのか，群生地が少ない気がします。平野部の森林伐採による自生地の減少は単純に考えて大きいですね。もっと沢山の保護林を残すべきだったのではないでしょうか。かろうじて残された森も道路の開通と街灯の影響で，大きな森以外はほぼ自生地が消えました。また，メスが飛べないため，道路や住宅や

畑などに遮られて繁殖地を広げられないので，一度絶滅した森では再生が難しく，農薬の空中散布などで絶滅した森には自生地が無くなりました。

ここ数年間，関東周辺の様々なヒメボタルの自生地を見てきて思ったのは，人の手が入りしっかり管理されている森に多くの自生地があることが判りました。原生林よりも下草が低い保護林の方が居心地がいいのかもしれませんね。人と生物は隣り合わせで深く関係しあって成り立っているのだと思います。

ヒメボタルの羽化のタイミングについてですが，ヒメボタルは桜前線と同じように北上しながら羽化していきます。北緯との関係はある程度係数で出せます。また桜と同じで標高も大きく影響し，こちらもある程度係数で出せます。サナギになるタイミングと羽化のタイミングは地温と湿度が大きく関わっていると考えています。これは繁殖期を効率よく活動するために習得した力なんでしょうね。森の周りの環境にも大きく影響を受け，森の周りの環境が草原の場合と畑の場合とグランドやアスファルトなどで羽化の時期が大きく変わってきます。グランドやアスファルトなどは地面で暖まった空気を森に送るため，影響を受ける範囲は羽化時期が早まり森の奥の羽化時期と差が出るため，飛翔時期が長くなる傾向にあります。森の周りが草原の場合，全体に羽化時期がそろってグランドなどと比べると飛翔時期は短めになります。近くに川が流れている環境では若干羽化時期が遅い傾向にあります。南斜面と北斜面でも羽化のタイミングが異なり南斜面の方が少し早い傾向にあります。セミと違い羽化後に水しか飲まない？為か，羽化後の寿命はとても短く，飛翔のピークを迎えてから約 1 週間ほどで寿命を終える感じがします。セミも以前は羽化後 1 週間の寿命と言われてましたが最近の小学生の研究でもっと長く生きることが判ってきました。飛翔時間についてですが日没型と深夜型，進化の過程で別れたのでしょうか？特に山間部に日没型が多い気がします。深夜型のエリアでも日没後にたまに光ることもありますが飛翔はあまり見かけません。日没型のエリアで明け方まで観察したこともありますが，たまに光ったり飛翔する程度でした。

個体の形や大きさ，DNA による種別など興味はあるのですが，現状では疑問にとどまっています。メスを抱いて飛ぶという話を聞いたことがあるのですが，もし事実なら画期的な繁殖行動ですが，事実不明です。静止画像の点滅の光の後ろに連続して小さな光を放つのを抱いていると勘違いしたのかもしれないですね。

ヒメボタルの自生地について

SNS などの普及で，ホタルの写真がインターネットで多く見られるようになり，

特にヒメボタルの写真と供にその自生地の情報が多く公開されるようになりました。ゲンジボタルやヘイケボタルと違い，深夜に光るヒメボタルは人の目につきにくく，その生態があまり知られていませんでしたが，最近では陸生ホタルの研究者も数を増やし，以前よりも多くの情報が得られるようになりました。インターネットを検索して情報を集めてみると，日本列島の各地に自生地があることが判ってきました。ただ北海道に関しては，今のところヒメボタルの情報を見つけることが出来ませんでした。私は北海道にもヒメボタルの自生地があると信じています。（情報をお持ちの方おりましたら教えて下さい）

ヒメボタルの撮影活動を通して，特に関東地方の自生地を調べていて，インターネットの情報などを元に実際に足を運びながら，これまでに数多くの自生地を見つけることが出来ました。まだまだ見つけ切れていない自生地も数多くあるので今後の課題です。関東地方のヒメボタルの自生地ですが，思ったよりも広く全都県に自生地がある事が判ってきました。詳細の公開は出来ませんが大まかに関東山地，秩父山地，伊豆半島，房総半島，三浦半島，群馬県栃木県茨城県山間部，関東平野全域に沢山の自生地が点在しています。特に山間部全域に自生地が広がっていることが判りました。千葉県では，房総半島の一部に自生地が確認されています。鴨川付近にしか居ないと言い切る方も居ますが，私は千葉県全域にも数多くの自生地が点在してると考えています。また都心部の古い森林においても各地に自生地が点在しています。都心部で見つけた情報では，30 年前の文献ですが埼玉県さいたま市にも自生地が確認されています。神奈川の横浜市でも自生地が確認されています。東京では多摩丘陵の先端付近でも自生地が確認されています。もしかしたら明治神宮や皇居などにもヒメボタルは居るのかもしれませんね！

ヒメボタルの移植について

ゲンジボタルと違い，餌の環境問題が少ないヒメボタルは，移植が比較的簡単にできます。生態倫理などの観点はさておき，街灯がとどかない比較的深い森で，腐葉土が厚めで下草がある程度低めの森であれば，交尾後のメスのヒメボタルを離すだけで簡単に移植できます。日本の山間部のほぼ全域に自生地があるヒメボタルを現時点で保護する必要は感じていませんが，都心部の森のヒメボタルは再生してもいいのかなと考えていますが，私はまだ完全に答えが出ていないため実際に移植活動は行っていません。実際に数年にわたり移植を試みている知人が，繁殖を成功させたと話していました。

※ 現在個人的にですが,東京埼玉の都心部に住むヒメボタルの自生地及び群生地の確認調査を行っております。範囲が広く一人で全てを調査するのは困難で,情報共有や調査に協力していただける方を探しております。今のところ調査結果を公開する予定は無く，ご理解いただける方でお願いします。

（後編に続く）

近況報告

横浜ほたるの会/日本ホタルの会 会員 及川雅彦

昨年，入会しました及川雅彦と言います。よろしくお願いいたします。

横浜ほたるの会に所属し，東京の自宅のマンションでヘイケボタルを 14 年間飼育していました。そして成虫が出てきたら近所の幼稚園や小学校で子供たちを集めてヘイケボタルの観察会をしていました。現在，岩手県盛岡市に移り，養蜂業の仕事をしています。日本ホタルの会の会員の中では最北に住んでいるとのことです。そのため周りにはホタルのことを語る人がおらず，孤軍の状態です。仕事も順調になってきたので，またヘイケボタルを飼育しようと考え，餌の貝をアパート内で増殖する実験をはじめました。しかし，盛岡の水は夏でもけっこう冷たい。冬の室内の気温も暖房しなければとても寒い。南関東の条件下を想定した飼育方法では飼育できない，ハードルが高い環境です。しかし，いつかは飼育できるようにして，子供たちにヘイケボタルを紹介して興味を持ってもらい，いっしょに飼育することができることを夢見て頑張っています。

日本ホタルの会 会計　市川万里子

20 年前, 私は創価大学でホタル飼育をしている螢桜保存会というクラブを見学し，先輩部員の「虫嫌いだけどホタルの光に感動して入部した」との言葉に衝撃を受け入部しました。初めて見たホタルの光は本当に美しく，虫嫌いまで虜にした話にも納得しました。就職後，仕事で落ち込んだ際にホタルから元気を貰った事もありました。今は毎年，子供と一緒に見に行っています。会は 30 周年ですが, 50 年, 100 年先にもホタルと共に暮らせる様, できる事を日々考えています。

2021 年度日本ホタルの会業務報告

日本ホタルの会の 2021 年度活動状況について，次のとおり，報告します。

1．会の体制

(1) 会員数

2021 年度の会員数は次のとおりとなっています。

年度	法人会員	公的会員	個人会員	計
2021 年度期首	1	3	５０	５４
2021 年度期末	1	3	５４	５８

(2) 役員体制

役員は，2020 年度に改選し，任期 2 年で運営を行っています。

名誉会長　矢島 稔
会長　本多和彦
副会長　鈴木浩文
理事　川村善治，井上 務，古河義仁，渋江桂子，後藤洋一
会計　市川万里子
監査　井上 務，後藤洋一
事務局　井上 務，古河義仁，渋江桂子，宇田川弘康，後藤洋一，大津順子

事務局業務は，事務局に会長と副会長を加えた体制で進めています。

矢島名誉会長は，2022 年 4 月 26 日逝去されましたが，本報告は 2021 年度の状況を説明するものなので，名誉会長として記載しました。

２．財政及び運営

(1) 財政

日本ホタルの会は，会員の皆様の会費によって運営されています。2021 年度の会費収入は，403,000 円となり，昨年の 245,000 円に比べ増加しました。これは，2022 年度会費から前年度の 3 月に請求することとしたため，2022 年度会費の一部が 2021 年度収入として計上されたことによる増と考えています。2021 年度は，2018 年度から行っているリソル生命の森の環境再生事業等への協力及び東京ガーデンテラス紀尾井町の再生水路に対する助言に伴う入金があり，合計で 252,226 円の収入となりました。これらの収入を加えた総収入は，667,278 円で，

前年から 302,468 円の増となりました。リソル生命の森からの収入は，2020 年度分で，東京ガーデンテラス紀尾井町は，2021 年度分を収入しています。収入の増加の要因は，前述の会費の請求時期の変更と東京ガーデンテラス紀尾井町の受託によるものと考えています。

一方，支出は，219,682 円となり，単年度収支でマイナスにはなりませんでした。全体として，1,426,358 円が，2021 年度への繰り越しとなります。主な支出としては，ニュースレター印刷が，107,800 円，郵送費 49,825 円，ホームページ関連 19,800 円などとなっています。オンラインでの会議や講演会，談話会等を行うための Zoom の利用も継続していますが，利用料の計上が 2022 年度にずれ込んだため，今回の決算には含まれていません。その他は，手数料，消耗品費等基本的なもので，支出はいずれも削減することのできない必要最小限のものと考えています。例年と同様の見解ですが，会員へのサービスを向上し，財政の安定化を図ることが必要と考えています。

近年，会員の減少が課題となっていますが，今年度は若干増加しました。しかし，会員数が以前に比べ減少傾向にあることに変わりないので，会員であることのメリットや充実感を感じられるような運営を考えていく必要があります。

また，収支が改善したもう一つ理由として「リソル生命の森」等に対する協力に伴う収入増があります。昨年も述べましたが，企業の求めるものと当会のコンセプトが一致し，良好な環境の保全・再生・創出等や地域の経済的メリット，さらにはホタルによる感動を伝えられる場が提供できるのであれば，こうした連携を推進する意義はあるものと思います。当会の考え方をしっかり伝えつつ，収入につなげることができればより有益であると考えています。2021 年度から東京ガーデンテラス紀尾井町の再生水路に対する助言も行っています。今後も，コストを意識しつつ，他の団体との連携を進め，会の活動の活性化に積極的に取り組み，会の存在感を高めていきたいと考えています。

(2) 運営

当会の運営は，理事会及び事務局会議により行っていますが，コロナ禍の中なので，メールなどを適宜使用しつつ，オンラインによる会議のみを開催いたしました。

・理事会　オンラインにより開催　2022 年 1 月 23 日; 計 1 回開催

・事務局会議　オンラインにより開催

2021 年 5 月 9 日，6 月 20 日，7 月 18 日，8 月 15 日，9 月 26 日, 10 月 17 日, 11 月 21 日, 12 月 19 日, 2022 年 2 月 20 日，3 月 20 日; 計 10 回開催

このほか，担当者の打ち合わせ，リソル生命の森との会議，東京ガーデンテラス紀尾井町関連の会議，懇親会など，随時オンラインにて実施しました。

３．活動報告

主な活動として，会則に基づいて，ニュースレターの発行，ホームページによる情報発信，各種イベント開催，講師派遣を行っています。2021 年度は，コロナ禍のため，ホタル観察会，日本ホタルの会シンポジウム，談話会については，コロナ禍の状況の改善が見込めないことから，オンラインにより開催しました。昨年も記載しましたが，オンラインによる情報共有や意見交換の場を設けることは，コロナ対策であるとともに，日時の設定に自由度があることなど，来場が困難な会員の皆様にも参加いただけるメリットがあると感じました。コロナ収束後も活用を進めていきたいと考えています。

(1) ニュースレターの発行

ホタルのニュースレター第 90 号，第 91 号，第 92 号，第 93 号を発行しました。

(2) ホームページ及びフェイスブックによる情報発信

ホームページは，当会の活動方針をはじめ，イベント案内など日本ホタルの会の情報を発信しています。また，ホームページ内に会員専用のサイトを設け，すべてのニュースレターが閲覧できるようになりました。今後も，こうした会員サービスの向上を図ってまいります。

(3) イベント活動

・オンライン観察会　2021 年 7 月 10 日　「ホタル映像を楽しみましょう」
講師　日本ホタルの会 宇田川康弘

・オンラインシンポジウム
2021 年 11 月 28 日　ホタルを通じて身近な自然を考える
－ヒメボタルの魅力と多様性－

・オンライン談話会
2021 年 9 月 11 日　「私たちの取り組み　－高知県香南市－」
講師　日本ホタルの会 中島久枝
2022 年 3 月 12 日　「ホタルと光害について－ホタルへの影響と対策例」　講師　日本ホタルの会 鈴木浩文・古河義仁

・オンライン懇親会
2021 年 6 月 12 日

例年シンポジウムの後に有志による懇親会を開催し，そこでの意見交換が楽しく，有意義であるという声があったので，オンラインによる懇親会を開催し，ホタルや環境について自由に意見交換する場を設けました。

(4) 講師派遣

・横須賀市逸見コミュニティセンターホタル観察会　2021 年 6 月 12 日

当日は，コロナ感染症拡大防止に配慮して野外で学習会を行いました。100 個体以上が観察されました。

・宮城県仙台市　作並温泉郷　2021 年 10 月 9 日～10 日

現地における環境調査及びホタル保全に係る指導を行いました。

(5) 調査・助言

・リソル生命の森（千葉県長生郡長柄町）

コロナ禍のため，現地指導は 1 回にとどまりましたが，オンラインによる会議を 2 回開催し，アウトドア施設計画に伴うホタル生息環境の保全等について，提言しました。

・東京ガーデンテラス紀尾井町

5 月 29 日の日本ホタルの会スタッフによる現地視察を皮切りに現地指導 1 回，オンラインによる会議 3 回を実施し，日本ホタルの会が考える水辺整備の方向性を提案しました。

4．2022 年度の活動について

日本ホタルの会は，ホタルを里山の象徴と考え，ホタルの棲む豊かな環境を取り戻すという理念を発信するため，活動を続けてきました。基本的な活動は変わりませんが，2022 年度は，日本ホタルの会発足 30 年の節目に当たることから，30 年間の活動を振り返りつつ，発足当初に掲げた理念のもとニュースレターの発行，観察会，シンポジウム等を実施してまいります。

新型コロナウイルス感染のまん延が続いている状況ではありますが，世界的に感染対策と経済活動等を両立させていこうとする傾向となっていますので，日本ホタルの会においても，観察会について，発生地でのリアルな観察会を実施することとし，すでに，7 月 23 日富士宮市において，感染対策に配慮したうえで，ヒメボタルの観察会を実施しました。シンポジウムも対面とオンラインを活用した形での開催を計画していますが，会場の都合や感染状況によって，オンラインでの開催になる可能性も考えています。談話会につきましては，オンライン開催に

より，遠隔地からの参加ができることから，引き続きオンラインによる開催を進めていきます。

また，リソル生命の森及び東京ガーデンテラス紀尾井町における調査・助言についても継続します。こちらも現地スタッフとのオンライン会議やメール等によるサポートを中心に展開していく方針です。この二つの施設は，いずれも民間の集客施設ですが，立地や環境に大きな違いがあり，それぞれの施設に求められるものにも違いがあると認識しています。日本ホタルの会は，私たちの掲げる理念を尊重しつつ，それぞれの施設の環境や目的に適した提案をしていきたいと考えています。

コロナ禍は，未だ収束が見通せない状況にあり，さらには，大雨など極端気象による災害も多発し，人の生活やホタルの住む環境にも大きな影響を及ぼしています。地球温暖化に伴う気候変動，そして生物多様性保全，この 2 つは最も重要な地球環境問題であり，気候変動は，生物多様性に大きく影響するものです。ホタルを大切にしていこうと考える私たちにとって，温暖化対策も，生物多様性保全も，一人ひとりが日々考えなければならないことであると思います。こうした認識のもと，日本ホタルの会は，これからもできることを積極的に進めてまいります。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

（事務局 本多和彦）

事務局からのお知らせ

新任理事の報告

2022 年 8 月 21 日の理事会において，中島久枝さん（高知県香南市）の理事就任が承認されました。

理事の就任にあたって

関東から四国に移動して以来，地域の方たちと共に環境問題について話し合ってきましたが，この高知で，どうやって会のお役に立っていけるだろうかと考えております。自然環境の保護・保全と再生に向けて取り組んでいる当会の理念の

一助になれるよう心がけていきたいと思っております。まだまだ学ぶべきことは多いのですが，皆様と一緒に取り組ませていただければと思っております。
よろしくお願いいたします。

日本ホタルの会 理事　中島久枝

談話会の報告

2022 年 9 月 17 日（土）にリモートでの談話会を開催しました。内容は，本年富士山山麓にて開催されたヒメボタル観察会（7 月 23 日）で撮影した写真を披露するというもので，15 名ほどの方々に参加して頂きました。初めに横浜市の菊池聰さんと川越市の小嶋健二さんに当日撮影したヒメボタルの写真を紹介して頂きました。また，当日の観察会で写真撮影の講師をされた古河義仁さんと宇田川弘康さんには，観察会現場での過去の写真も交えてヒメボタルや現場の解説をして頂きました。その後，ヒメボタルの生息地についての情報交換，デジタル写真の合成・加工についてのソフトや技術について質疑を行い，散会しました。

シンポジウム開催のお知らせ

今年度のシンポジウムは，対面とリモート併用での開催を予定しております。開催日は 2022 年 12 月 11 日（日），場所は工学院大学新宿校舎です。詳細は，別途お知らせ致します。

＊＊＊

ホタルのニュースレター（第96号）
2022年11月15日発行
編集　日本ホタルの会事務局
発行　本多 和彦
〒239-0824　神奈川県横須賀市西浦賀4-11-2-404
本多方（日本ホタルの会事務局）

e-mail: hotarunokaijimukyoku@gmail.com
ホームページ：https://www.nihon-hotaru.com
Facebook: https://m.facebook.com/nihonhotaru
印刷　青森コロニー印刷　　東京都中野区江原町2－6－2